

# 瀬<sup>せ</sup>底<sup>そこ</sup>大橋



路線名	一般県道瀬底健堅線
規格	第3種4級
架橋位置	起点側：本部町健堅（本島）
	終点側：本部町瀬底（瀬底島）

橋種	鋼二ールセンローゼ橋+4@PC3径間連続箱桁橋+PC2径間単純T桁橋
橋格	1等橋
橋長	762.00m
設計速度	40km/h
有効幅員	車道7.25+歩道2.5 (m)
支間割	3@40.00+3@54.30+139.50+3@54.30+3@40.00+23.65+23.65(m)
平面線形	R=∞
架設工法	標準部：張出しブロック架設工法・吊りブロック工法 航路部：大ブロッカー括架設工法（フローティングクレーンによる）
クリアランス	W=130.5m H=22.0m
設計荷重	TL-20
地質概要	地質は上層が10~15m厚の沖積海浜砂層で標高-20.0m以深に下層の琉球石灰岩が30m以上の厚い層を形成している 沖積砂層は本島側が細粒でかなり緩い
事業費	約57億円

# 建設経緯

瀬底島は、本部半島の西側700mに浮かぶ周囲7.3km、面積2.99km<sup>2</sup>の島である。周囲は、リーフが発達し東海岸の白砂の海浜からは、海洋博記念公園、伊江島タッチューが遠望できる風光明媚な所である。集落は内陸部に発達し、農業が主な産業となっている。架橋前は700m余りの海峡のために、瀬底島の人々は種々の辛酸を味わってきたが、昭和47年度から7年間にわたる調査を経て、瀬底大橋は昭和54年度より架橋工事に着手し、昭和60年2月に完成、開通した。

年月日	事項
昭和47年	瀬底大橋基礎調査、架橋ルート決定
昭和49年	7月8日、瀬底建堅線が県道に認定される
昭和51年	「瀬底島架橋協議会」結成
昭和52年	予備設計を行い橋梁形式が決定される
昭和53年	詳細設計完了
昭和54年11月	本工事に着手し下部工工事はじまる
昭和55年2月	鋼管杭基礎鉛直載荷試験を行う
昭和55年4月	瀬底大橋建設現場事務所設置
昭和56年7月	鋼管矢板井筒基礎工事始まる
昭和56年8月	上部工PC桁製作工事始まる
昭和57年9月	PC箱桁架設工事始まる
昭和58年7月	ニールセンローゼ桁製作始まる
昭和58年12月	下部工工事完了
昭和59年5月	ニールセンローゼ桁架設
昭和59年9月	PC箱桁架設工事完了
昭和60年2月13日	開通
平成7年	橋梁補修工事（上弦材・下弦材）
平成18年6月	耐震補強工事（支承取替え工）
平成18年10月	上部工補修工事（橋面舗装工・被覆工）
平成20年10月	下部工補修工事（表面塗装被覆工）
平成21年5月	下部工補修工事（鋼板巻立て工）
平成22年8月	下部工補修工事（鋼板巻立て工）
平成24年8月	上部工補修工事（支承防錆工）
平成24年10月	付属施設補修工事（照明灯撤去、設置工）
平成25年9月	付属施設補修工事（航路灯・照射灯撤去、設置工）
平成25年11月	上部工補修工事（表面被覆工）

## 瀬底島の概要

位置：本部半島の西側700m

人口：842人（平成28年）

世帯数：385戸（平成28年）

面積：2.99km<sup>2</sup>

周囲：7.3km

島の産業は農業が主で、さとうきびの他、メロンも主な産物となっている。



親柱

海のかなたのニライカナイから幸福を乗せて一杯に風を受けて進む船の帆をデザインしたもの。



橋詰広場

## 受賞

昭和59年度全建賞（道路部門）



側面



開通記念碑